

# 音楽科授業案

授業者 杉浦 崇文

- 1 日 時 令和7年11月20日(木) 第5時
- 2 学 級 3年B組 (男子15名 女子21名 計36名)
- 3 題 材 名 「my music」をつくろう
- 4 題材目標

・「前奏曲 op. 23-5(S. Rachmaninov)」「水の反映(C. Debussy)」「手事より『輪舌』(宮城道雄)」「カガアリアルスティーカーナより『間奏曲』(P. Mascagni)」「ソナタとインターリュードより『ソナタV』(J. Cage)」の曲想と音楽の構造の関わりや、音楽の特徴と他の芸術との関わりを理解する。

(知識及び技能)

・音色、リズム、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、それぞれの曲のよさや美しさを味わって聴く。

(思考力、判断力、表現力等)

・音色、リズム、旋律、テクスチュア、強弱の違いによって生み出される雰囲気や表情などの変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。

(学びに向かう力、人間性等)

## 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知①曲想と音楽の構造の関わりについて理解している。</p> <p>知②音楽の特徴と他の芸術との関わりについて理解している。</p>	<p>思①音色、リズム、旋律、間、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。</p> <p>思②曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、それぞれの曲のよさや美しさを味わって聴いている。</p>	<p>態①音色やテクスチュア等の違いによって生み出される雰囲気や表情などの変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

## 評価基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	メロディ・リズム・強弱・音の重なりなど3つ以上の特徴を見つけて、それらを使って感じたことを説明できている。	音楽の特徴に注目し、それらと自分の感じた印象や感情を結びつけている。さらに、曲の背景や文化的背景も踏まえて、自分にとっての意味や魅力を、根拠をもって、表現できている。	音楽を聴いた際に感じたことや気付いたことを、言語化したり他者と共有しようとしたりする活動に積極的に取り組んでいる。my music の選定理由や表現に、自分なりの問いやこだわりがあらわれている。
B	音楽の特徴を2つ取り上げて、説明できている。	音楽の特徴に注目し、それらと自分の感じた印象や感情を結びつけている。	音楽を聴いた際に感じたことや気付いたことを、言語化したり他者と共有しようとしたりする活動に積極的に取り組んでいる。
C	Bを満たしていない	Bを満たしていない	Bを満たしていない

## 5 題材観

本題材は、音楽科における〈音楽的思考〉の育成と〈生活に根ざした音楽の意味づけ〉という二重の軸を統合する実践であり、単なる「知識を得る鑑賞」ではなく、生徒が“自分ごと”としてとらえる「関係を築く鑑賞」への転換を目指していく。

本題材で取り扱う指導事項は学習指導要領の B 鑑賞（1）のア(ア)曲や演奏に対する評価とその根拠、イ(ア)曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること、イ(イ)音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解すること、の3点であり、また〔共通事項〕「音楽を形づくっている要素」では、主に「音色」「リズム」「旋律」「テクスチャ」「強弱」を扱う。

現代の中学生は、日常的に J-POP や K-POP、洋楽など様々なジャンルの音楽を楽しむ一方で、音楽そのものの構造や響きに対する関心は薄く、歌詞や話題性といった外的要素を中心に楽曲を評価する傾向がある。こうした状況の中で、音楽鑑賞が「背景知識の理解」にとどまり、生徒の内的な意味づけや主体的な聴取が生まれにくいという課題が指摘されている（国崎, 2023）。

こうした実態を踏まえ、本題材では、生徒がクラシック、邦楽、現代音楽など多様な 5 曲（S. Rachmaninov, C. Debussy, 宮城道雄, P. Mascagni, J. Cage）を鑑賞し、その中から「自分にとって最も意味のある音楽=my music」を選び、音楽的特徴をもとに分析・プレゼンテーションを行う。ここで注目すべきは、「自分の好きな曲を持ち込む」のではなく、「初めて出会う 5 曲の中から選ぶ」という設定である。これは、生徒が“音そのもの”に向き合い、既存の価値観や好みを一度リセットした状態で音楽と出会い直す経験を意図したものである。普段親しんでいる音楽は、歌詞やアーティスト、自身の経験といった背景（非音楽的要素）に強く影響されている場合が多く、音楽を形づくっている要素（=構造的要素）に注目して捉える視点をもちにくい。そこであえて、事前情報を伏せた状態で未知の音楽を聴くことで、生徒自身の「感性」と「音楽の構造的要素」とを結びつける力を育成する。

1 時間目では作曲者やタイトルなどの情報を伏せた状態で音楽を聴かせ、「音色」「リズム」「旋律」「テクスチャ」「強弱」といった要素に注目させることで、「音への気付き」を起点とした能動的な鑑賞を促す。2 時間目には楽譜を提示し、音の流れや構造を視覚的に捉えることで、聴覚的印象との往還的理解を促す。その後タイトルや背景情報を明かすことで、印象との一致やズレを捉え直し、「音楽的問い」がより深まる構成としている。3 時間目は第 1 時に自身が感じたこと、第 2 時の音楽的特徴と曲の背景を結び付け、「my music」の理由を形作る。4 時間目のプレゼンテーションでは、生徒が自らの「my music」から感じ取ったことや魅力を仲間に伝える。これは単なる音楽分析ではなく、音楽に対する自分自身の見方を問い直し、他者との対話を通してその意味をさらに深めていく過程である。生徒は「なぜこの曲が自分にとって意味があるのか」を探ることを通して、音楽の価値や自分との関係を再構築する体験を得ることになる。

このように、自らの感性に合った楽曲を選び、音楽的観点から魅力を探究し、他者に向けて伝える本実践は、小川（2008）が提唱する「my music」すなわち学習者にとって意味のある音楽体験を出発点とする音楽科教育のあり方に通じる。生徒自身の経験や価値観を尊重することが、主体的で探究的な音楽との関係づくりにつながると考えられる。

また、この題材は、平松・山中（2019）が提案する「〔共通事項〕に基づいた語彙指導」にも通じ、音楽的理解の言語化を通して、感受と分析をつなぎ、他者との共有可能な「音楽の語り」を生み出すことをねらいとしている。さらに、木下・中山（2023）が提唱する「越境的学び」の観点からも、本題材の意義は大きい。生徒は、生活の中で育んできた音楽への感じ方や考え方と、授業で学ぶ構造的・分析的な視点とを往還する中で、音楽的な見方・考え方をより多面的・意識的なものへと発展させていく。このプロセスは、水平的学び（生活文化）と垂直的学び（専門的知識）の接続を可能にし、「音楽との出会い直し」の場を提供する。

6 題材計画

時	<課題> ・生徒の活動 <u>目指す生徒の姿</u>	評 価
1	<p>                             &lt;5つの曲はどんな特徴があるかな&gt;                              ・多様な5曲の分析を通して、自身の「my music」を探っていく。                              S. Rachmaninov 「前奏曲 op. 23-5」                              C. Debussy 「水の反映」                              宮城道雄 「手事より『輪舌』」                              P. Mascagni 「カヴァリア・リステイカーナより『間奏曲』」                              J. Cage 「ソナタとインターリュード」よりソナタV                         </p> <p> <u>4曲目のオーケストラの曲を聴いているとなんだか切ない感じがした。</u> </p>	<p>                             曲想と音楽の構造の関わりについて理解できたか。 (知識)                         </p> <p>                             それぞれの曲のよさや美しさを味わって聴きながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考えることができたか。 (思考・判断・表現②)                         </p> <p>                             第2時まで                              音色やテクスチャの違いによって生み出される雰囲気や表情などの変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしたか。 (主体的に学習に取り組む態度)                         </p> <p>                             第4時まで                         </p>
2	<p>                             &lt;自分の選んだ曲の分析を深めよう&gt;                              ・前時に選んだ1曲について、楽譜をもとに分析をし、音楽の特徴について深めていく。                              ・選んだ曲のタイトルや作曲者を開示し、前時までに自身が分析した特徴と結び付ける。                         </p> <p> <u>オーケストラの曲は、テンポがゆっくりで、急激な音量の変化がない。弱く始まってだんだん強くなり、最後は高い音で弱く終わるところや、長調なのに短調のような雰囲気もあるから、切なく感じたのかな。</u> </p>	<p>                             音楽の特徴と他の芸術との関わりについて理解できたか。 (知識)                         </p> <p>                             第4時まで                         </p> <p>                             音色、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、題名や曲の背景など、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることができたか。 (思考・判断・表現①)                         </p> <p>                             第4時まで                         </p>
3	<p>                             &lt;感じたことと音楽の特徴、曲の背景とを結び付けよう&gt;                              ・第1時に感じたことと第2時の音楽的特徴、曲の背景とを結び付けて、「my music」を深めていく。                         </p> <p> <u>初めて聴いたときは切ない感じがしたが、それは強弱が山のように変化したり、音が高いのに弱く終わったりするからだと思った。オペラの内容は悲劇的だが、この間奏曲は祈るような雰囲気をもっている。物語と正反対だということも魅力の一つかもしれない。</u> </p>	
4	<p>                             &lt;プレゼンテーションしよう&gt;                              ・自身の選んだ曲について、その理由をプレゼンテーションする。                         </p>	

## 7 本時について

(1) 授業名 音楽の特徴と曲の背景を結び付けよう (2/4)

(2) 目 標 音色やテクスチャなどの音楽的要素が生み出す曲想や雰囲気を感じ、それが曲の題名や背景とどのように関係しているかを、自分なりに考察しようとしている。

(思考・判断・表現)

(3) 授業過程

学 習 活 動 ○課題 ●生徒のあらわれ	・支援及び留意点 ◎評価	形態・時間
<p>○前時に自分が選んだ1曲について、音楽の特徴を分析してみよう。</p> <p>●城のイメージ ●なめらかな音のつながり</p> <p>●テンポがゆっくり ●星空のよう</p> <p>●音が伸びている ●短調だと思ったけど長調だった</p> <p>●主旋律がヴァイオリン 前半は波のように揺れる旋律</p>	<p>・楽譜等の資料を提示し、自由に調べさせる。</p>	<p>全体・個人 15分</p>
<p>○小集団で共有しよう。</p> <p>●ヴァイオリンの高音で始まる。すごく神聖な雰囲気。</p> <p>●長調だけどところどころ暗い和音があるから短調に聞こえたのだと思った。</p> <p>●ヴァイオリンが主旋律だね。</p> <p>●速度が全体的にゆっくりだけど音が途中で大きくなるところがホテルのビュッフェとかで流れていそう。</p> <p>●p pが使われていて、明るすぎない音と高い音だけが響いているのが静かな夜の雰囲気。</p> <p>●音が広がっていく感じ。貴族の行進をイメージした。</p> <p>●ブルタバの主題のように滑らかな旋律だね。</p>	<p>・仲間の意見のうち、取り入れたいと思ったものを赤で書き加えさせる。</p>	<p>小集団 20分</p>
<p>○曲の背景を知ろう。</p> <p>●物語が暗すぎる。自分が感じていた第一印象と全然違って驚いた。</p> <p>●決闘を申し込む直前に流れる曲らしい。</p> <p>●主人公の心情表現ではなくて、観客を落ち着かせるための曲ではないかな。テンポが速いと怒りとかをイメージするけれど、ゆっくりだから。</p> <p>●波のような旋律だと思っていたところは、主人公の揺れる感情を表していたのかもしれない。</p>	<p>・題名や作曲者、背景と音楽の特徴、曲の第一印象を結び付けさせる。</p> <p>◎音色、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、題名や曲の背景など、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることができたか。</p> <p>(思考・判断・表現①)</p>	<p>個人 15分</p>

## 引用・参考文献

- 文部科学省(2018)『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 音楽編』 教育芸術社
- 加藤徹也 山崎正彦(2018)『中学校 新学習指導要領 音楽の授業づくり』 明治図書
- 小川昌文 他(2023)『よくわかる音楽教育学』 ミネルヴァ書房
- 小川昌文(2008)「学校の音楽教師にとって本当に必要な力とは何か—『my music』という概念の導入」『音楽教育実践ジャーナル』 第 5 巻第 2 号 pp. 73-84
- 久保田慶一 他(1996)『はじめての音楽史-古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』 音楽之友社
- 国崎夏未(2023)「音楽的思考の育成を目指した中学校音楽科授業の研究—生成の原理と反省的思考に着目した第 1 学年鑑賞領域の実践を中心に—」『佐賀大学大学院学校教育学研究紀要』 pp. 539-551
- 平松舞 山中和佳子(2019)「中学校音楽科における鑑賞授業の実際—音楽の言語化と他者との共有に着目して」『福岡教育大学大学院教職実践専攻年報』 第 9 号 pp. 95-103
- 木下和彦 中山由美(2023)「中学校音楽科での鑑賞活動における越境による学び」『音楽教育学』 第 52 巻第 2 号 pp. 1-4
- 阪井恵(2011)「<聴く>とはどのようなことか—音楽教育の実践に即して考える」『音楽教育実践ジャーナル』 第 9 巻第 2 号 pp. 66-73

# MEMO

アンケート QR コード

